

第1回 Korea - Japan Cornea Joint Conference

第1回Korea - Japan Cornea Joint Conferenceが平成19年6月23日(土)の午後1時から懇親会を含めて夜の8時まで、ウエスティン都ホテルで開催されました。本会は、2000年まで行われていた日韓眼科ジョイントミーティングにルーツを持つ会であり、今回、角膜領域のアカデミックな交流を深めようと日韓の角膜のオピニオンリーダーである木下教授と車興元(Tchah Hung-Won)教授(Ulsan大学眼科)のオーガナイズにより開催に至りました。もともと、韓国には角膜疾患研究会(Korea Cornea Disease Study Group: 通称KCD SG、現在45名程)があり、今回は、KCD SGのベストメンバーから5題、府立医大眼科関連から8題の角膜の新しい研究発表があり、参加者は、府立医大眼科関連で総勢22名、韓国からは、総勢26名でしたが、みんな非常に熱心で、懇親会中も含め、非常に活発な討論と親密な交流がなされました。(横井則彦)



KPUM&Friedrich-Alexander-University Erlangen-Nurnberg University Collaborating Conference

第2回KPUM&Friedrich-Alexander-University Erlangen-Nurnberg University Collaborating Conferenceが昨年11月2日より2日間、京都府立医科大学・青蓮会館で開催されました。山岸久一学長の挨拶でJoint meetingの幕があげ、両大学より合わせて23名の演者が発表し、それに対して内容の濃い討論が大学間で行われました。今回は発表だけではなく、当大学において実際に施行している重傷眼表面疾患に対する口腔粘膜移植時の口腔粘膜培養などを実際に見学していただきました。今回の交流は討論会などの知識交換だけでなく、実際の臨床における技術交換もおこない、有意義な時間をお互いの大学で共有できたと考えています。今後もさらなる共同研究などに向けて意見交換をしていく予定です。(丸山和一)



魅力ある卒後研修をめざして

眼科スーパーローテイト 研修要綱 (第2版)

京都府立医科大学 眼科学教室

京都府立医科大学眼科では、今年9名の前期専攻医を迎えました。4月末の現在、「前期専攻医集中講義プログラム」として各専門外来の先生や視能訓練士から専門分野あるいは特殊検査に関する講義があり、集中的で効率的な前期専攻医の教育が行われています。また、卒後臨床研修中に眼科を選択する先生を含めて、最初の知識および診療業務の導入には教室で作成した「眼科スーパーローテイト研修要綱」(写真)を配布しています。この中には、眼科の基本業務、薬剤や眼科診察用機器の使用方法、眼科主要疾患についての説明と研修時期ごとの到達目標が記載されています。また、初期教育にはチューター制度を採用し、前期専攻医2人に1人の後期専攻医がついて、病棟業務のみならず、基本的な眼科診察の技術面の指導や患者さんとの接し方など眼科医としての基本的な姿勢の指導を行なっています。各専門毎に週1回ずつのカンファランスを行っており、可能な限り時間を設けて各専門分野に関する教育も行っています。(米田一仁)